

想作天文学 [XI]

台風シーズン

1982年は多くの台風に見舞われた。夏から秋にかけてるくに青空をみなかったほどだ。ペアーで発生した台風がぶつかりあったもの。進路が不確定でゆっくりと複雑な動きをしたもの。台風は、それ自身さまざまの体験をしたといってもいいほどだ。

私は理論天体物理が専門だ。銀河の回転の安定性を調べたり、銀河どうしの相互作用を調べたりしている。台風の動きをみていると、つい専門の銀河のふるまいに考えがおよんでしまう。学生結婚でともかせぎの我が家では、私が洗濯をすることになっている。必然的に洗濯をしながら考えごとをする。そんな姿をみて、早とちりの妻が、私を背後から狂気のように抱きすくめたことがある。洗濯槽に入水自殺をするのだと思ったそう。早とちりもいいところだ。

洗濯の最中にひらめいたアイディアは多い。回転するブラックホールに相補的なホワイトホールの概念にゆきつuitしたのは脱水器が急速に加速回転する音を聞いたときだ。ブラックホール周辺での Accretion matter の加熱によるX線放射のメカニズムは、洗濯槽を放水モードにしたときに、ちぎれたボタンと息子のビー玉がぶつかりあう音を聞いた時にひらめいた。

そんな私達夫婦も今年は初夏のころ、はじめて常夏のミクロネシアに旧婚旅行としゃれこんだ。これは私達にとっては一世一代のゴージャスな夏休みだった。

私は銀河の力学を大型コンピュータで数値計算するという手法でたしかめている。ところが、これがやっかいなのだ。質点近似でも流体近似でも現象をうまく取り扱ったことにはならない。私の「粉石鹼近似」は、銀河の回転とともに流体+質点の近似が高まってゆくので、出世作と自他ともに許している。ラプラスは、計算が超

高速のできるしろものを考えた。こんなものがあると、宇宙の現状が把握できるとあとは未来永劫にわかると考えた。人はこれを「ラプラスの魔」という。

しかるに銀河の力学には未だ未だ謎が多い。まだまだ洗濯をして修行をつむ必要がある。それにいまのコンピュータはまだまだ幼稚だ。ラプラスの魔にはとてもおよばない。

そこで考えたのが、気象という実際のアナログコンピュータを利用することだ。今年の台風は私がちょっと細工をしたからだ。気象と銀河を結ぶ相似則をうちたてたのが成功のもとだ。とくに物質に凍結した銀河プラズマの取り扱いが問題の要だった。このヒントは「天文と気象」という雑誌を立ち読みしたときに得られた。

知り合いから電話がかかった。「あんだ、天文台だろ。今週の週末はどうなる？」 (ラ・プラズマ)

☆☆☆

◇ 11月の天文暦 ◇

日時	記	事
1 22	望	
4 11	金星	外合
4 19	月	最近
8 3	立冬	(太陽黄経 225°)
8 16	下弦	
13 23	木星	合
16 0	朔	
20 3	水星	外合
20 20	月	最遠
23 0	小雪	(太陽黄経 240°)
24 5	上弦	
27 20	天王星	合

◇ 11月の日月惑星運行図 ◇

